

令和 7 年度第 1 回恵那市総合教育会議

日時 令和 7 年 8 月 20 日（水）

午後 1 時 30 分～

場所 恵那市役所 西庁舎 4 A 会議室

1. あいさつ（市長・教育長）

2. 議題

①恵那市内小中学校におけるいじめ・不登校の現状と取組について 【別紙 1】

②恵那市教育大綱の策定について 【別紙 2】

令和7年度第1回恵那市総合教育会議名簿

役 職	氏 名	備 考
市長	小坂 喬峰	
教育長	岡田 庄二	
教育委員（職務代理者）	樋田 千史	
教育委員	小栗 秀子	
教育委員	西尾 修欣	
教育委員	村松 訓子	

まちづくり企画部

まちづくり企画部長	鷹見 健司	
まちづくり企画部次長 兼企画課長	松田 泰明	

教育委員会事務局

副教育長	工藤 博也	
教育委員会事務局長	鈴木 幸宣	
教育委員会事務局次長 兼学校教育課長	丸山 頼彦	
教育委員会事務局次長 兼社会教育課長	柄澤 史枝	
教育総務課長	瀬瀬 千尋	
教育総務課係長	志津 博光	
学校教育課担当係長	小栗 研	

恵那市内小中学校における

いじめ・不登校の現状と取組について

令和 7 年 8 月 2 0 日(水)

恵那市教育委員会学校教育課

目次

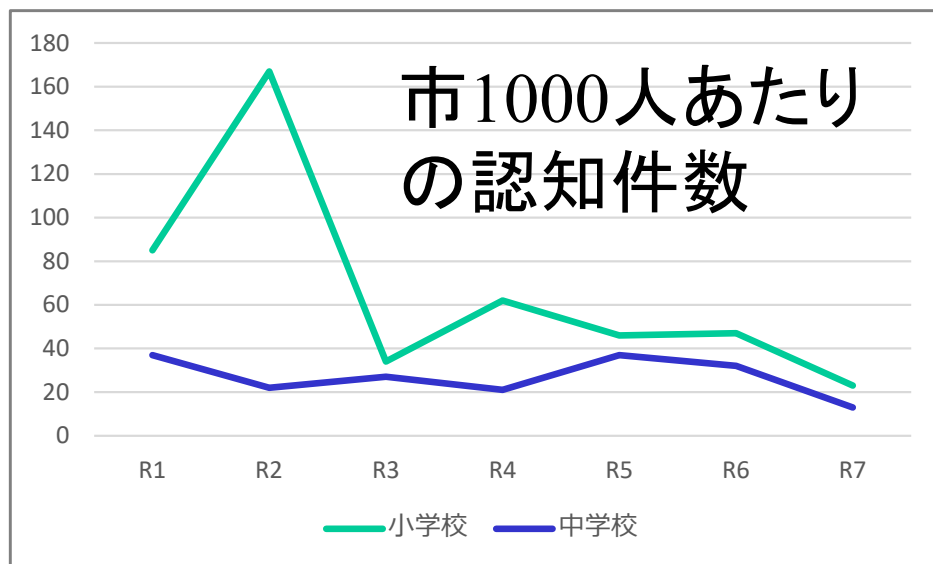
• いじめ問題の現状・内容	3-6
• 不登校問題の現状・内容	7-9
• 今年度のキーワード	10
• 発達障がいと「いじめ」「不登校」	11-12
• いじめ問題への取組 1	13-14
• いじめ問題への取組 2	15
• いじめ問題への取組 3	16-17
• いじめ問題への取組 4	18
• 不登校問題への取組 1	19-22
• 不登校問題への取組 2	23-26
• 不登校問題への取組 3	27
• 不登校問題への取組 4	28-30
• 不登校問題への取組 5	31-32
• 成果と課題・今後に向けて	33-34

いじめ問題の現状

※いじめ防止対策推進法におけるいじめの定義は、一定の人的関係にある他の児童等が行う、心理的又は物理的な影響を与える行為を受けたことにより、心身の苦痛を感じているもの。

いじめ認知件数の推移

年 度	R 1		R 2		R 3		R 4		R 5		R 6		R 7（7月まで）	
学校区分	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
計	215	47	412	28	81	33	142	27	97	45	100	39	46	15
1000人あたりの認知件数	85	37	167	22	34	27	62	21	46	37	47	32	23	13

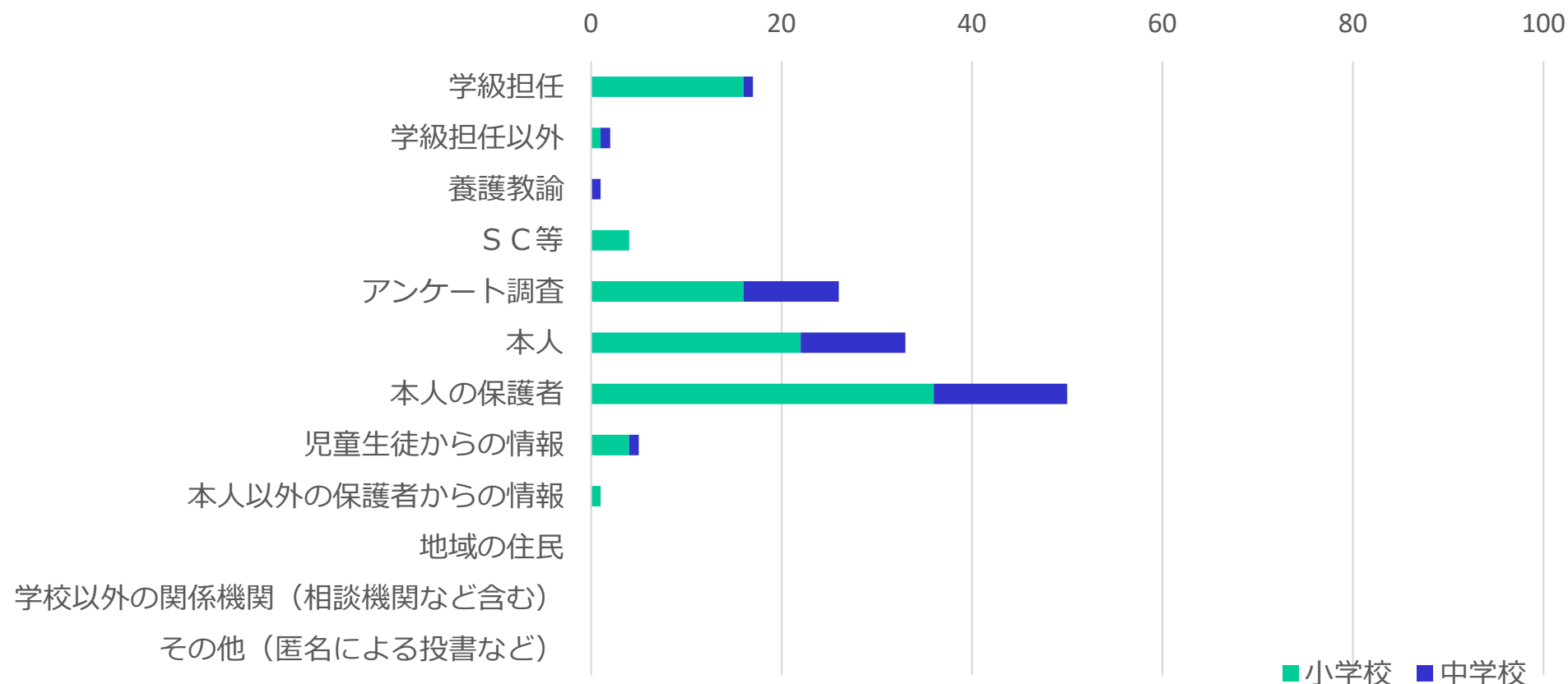


傾向

- 認知件数は、本人の受け止め方（アンケートへの回答）によって大きく変動している。
- 「アンケートの罠」(P 1 9)に留意したい。
- 令和5年度 国の1000人あたりの認知件数
小96.5件 中38.1件
県は、小中合算で33.3件

いじめ問題の内容①

発見のきっかけ（令和6年度）

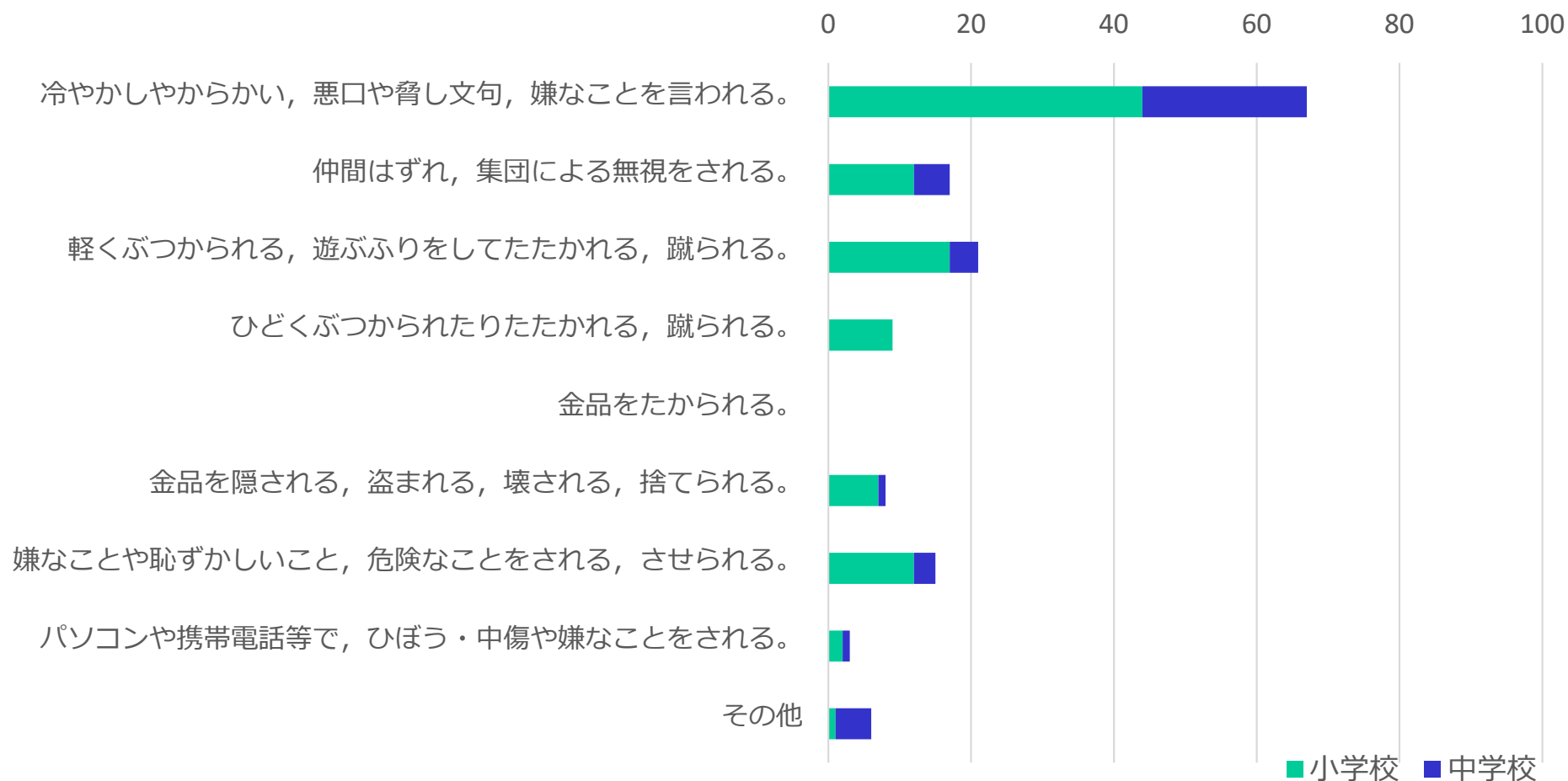


傾向

- 学校の職員が発見、アンケート調査、本人からの訴えが上位となった。
→自らのSOSの出し方の習得や、担任や関係教職員との信頼関係の構築によるものと考えられる。

いじめ問題の内容②

様態（令和6年度）

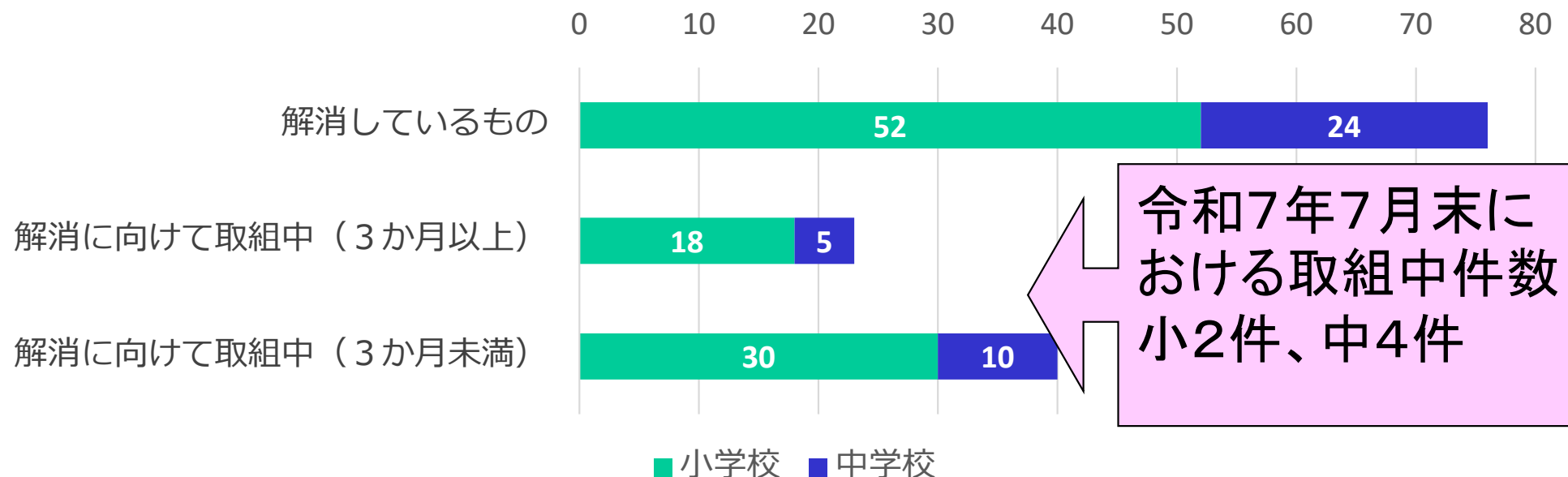


注1) 複数選択を可とする。

注2) 1件のいじめであっても、複数の態様に該当する場合にはそれぞれの項目に計上する。

いじめ問題の現状

いじめの現在の状況（令和6年度）



- 解消しているものの判断として、被害児童等が心身の苦痛を感じておらず、いじめ行為の止んでいる状態が少なくとも3ヶ月間（見届け期間）継続していること。
- 見届け期間中、教職員は被害・加害児童生徒の様子を含め状況を注視する。

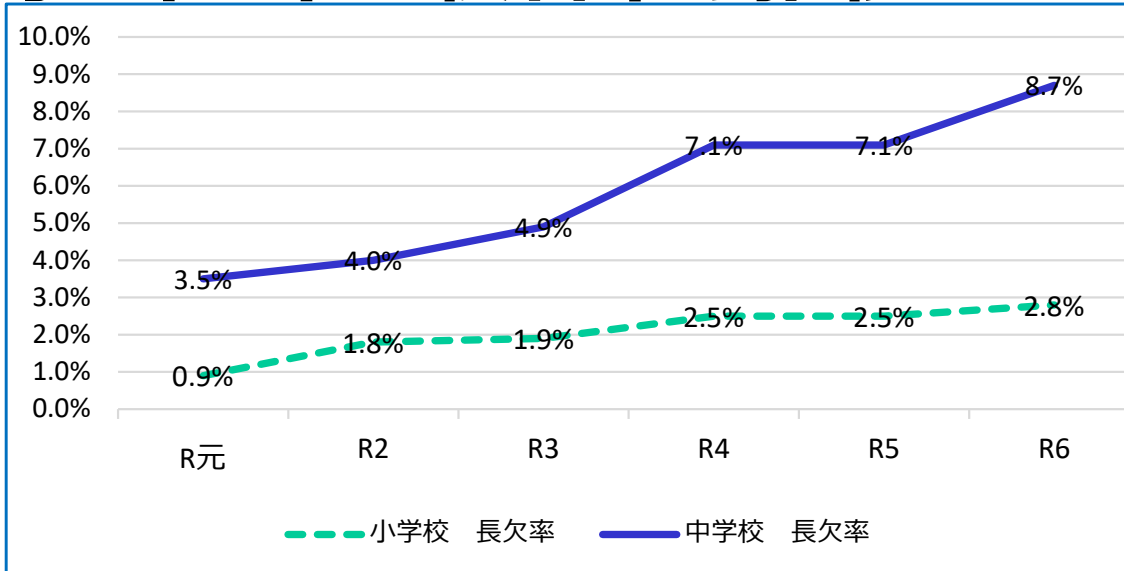
不登校問題の現状

不登校児童生徒

※不登校（病気、ケガ、経済的な理由を除く、年間30日以上欠席の児童生徒人数）

		R元	R2	R3	R4	R5	R6
不登校者 総数	小学校	23	45	47	59	56	60
	中学校	45	51	63	92	87	105
	合計	68	96	110	151	143	165
不登校者 率	小学校	0.9%	1.8%	1.9%	2.5%	2.5%	2.7%
	中学校	3.5%	4.0%	4.9%	7.1%	7.1%	8.7%
	小中	1.7%	2.5%	3.0%	4.2%	4.2%	5.0%

小・中 不登校者率の推移



※学校内外にて相談等の実施は100%

※R6 年間90日以上の不登校児童生徒数

…小：33人、中：62人

※R6 年間出席日数10日以下の児童生徒数

…小：8人、中：6人

学年別不登校人数

(令和6年度)

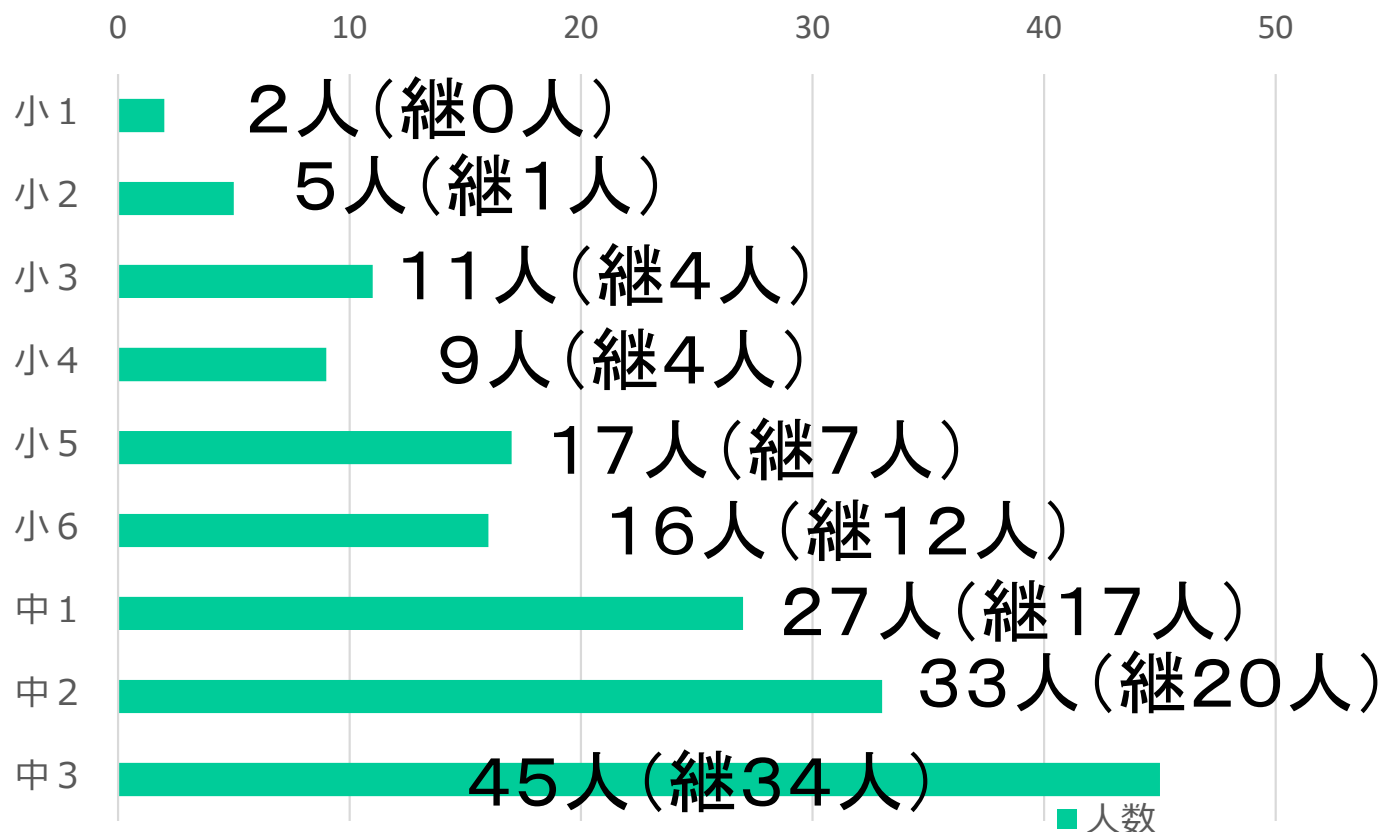
※不登校

病気、ケガ、経済的な理由を除く、年間30日以上欠席の児童生徒人数

全日制高校22

通信制高校20

その他 3



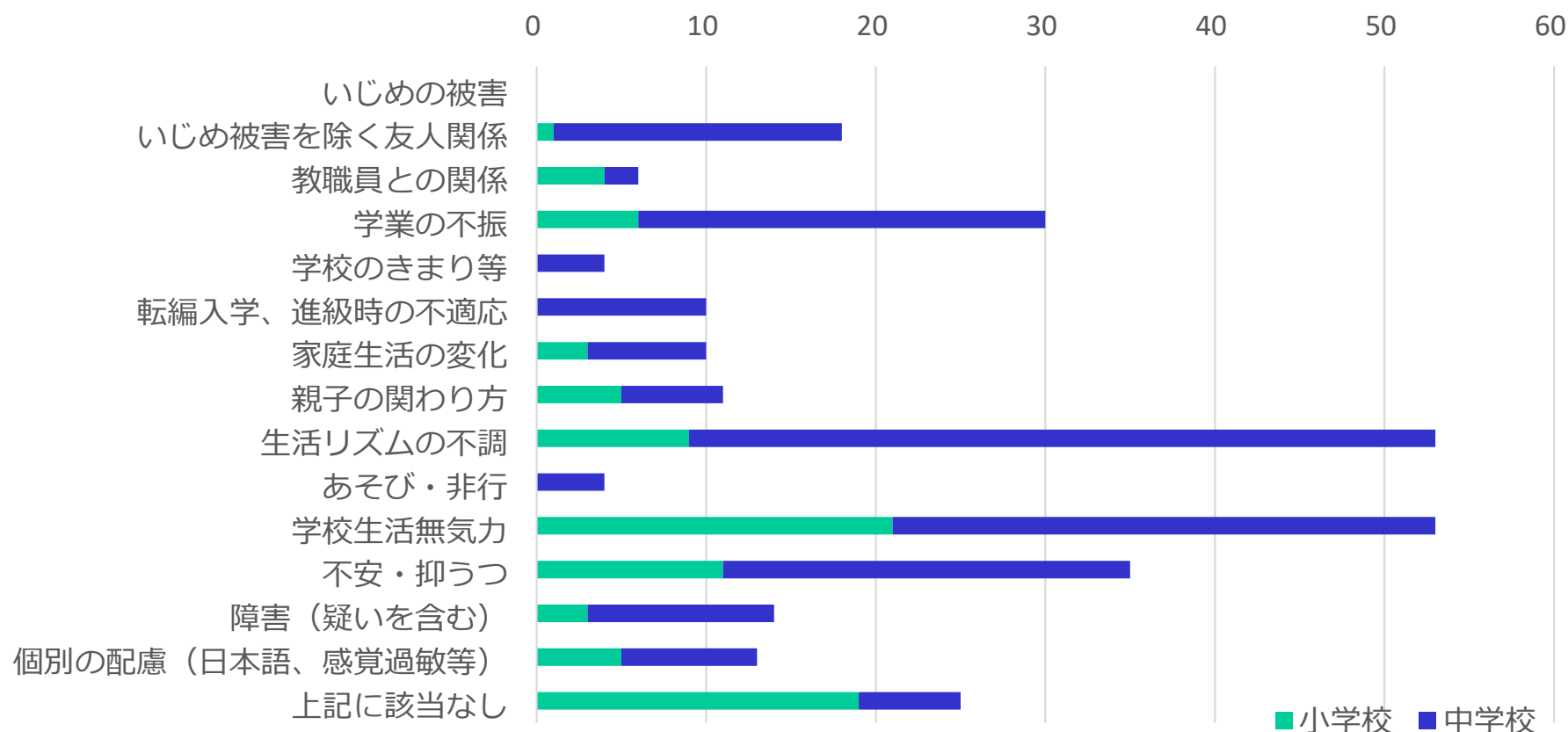
傾向

小6 0 人のうち、昨年度からの継続は 2 8 人。中1 0 5 人のうち、昨年度からの継続は 7 1 人。

⇒学年が上がるにつれ、継続者も増えている。

不登校問題の内容

不登校の原因（令和6年度）



傾向

- ・学校生活無気力、生活リズムの不調、不安・抑うつに加え、「学業の不振」が上位を占めている。
- ・児童生徒自身が捉える「原因」と学校が捉える「原因」の乖離について考える必要あり。

令和7年度 恵那市 いじめ・不登校「今年度のキーワード」

○いじめの見逃し 0

(いじめ認知数 = 子どもを救った数)

○認知したいじめの解消 1 0 0 %

○不登校児童生徒のうち、校内外の機関
等で誰かに相談をした割合 1 0 0 %

○不登校児童生徒を抱える保護者支援

○sosの受け止め方の充実

発達障がいと「いじめ」「不登校」

■ 発達障がいと「いじめ」

発達障がいの子どもがいじめに遭う確率は、一般の児童生徒と比べて高いといわれている。

ある研究では、発達障がいの子どもと「いじめ」の間には極めて密接な関連がある事が明らかになっている。

	いじめられた経験	いじめた経験	仲間はずれにされた経験
定型発達	8.5%	7.0%	8.6%
自閉症（ASD）	29.0%	6.5%	42.9%
A D H D	29.2%	12.5%	27.6%
学習障害（LD）	24.2%	30.3%	18.2%

参考文献 Twyman KA et al. Bullying and Ostracism Experiences in Children with Special Health Care Needs. J Dev Behav Pediatr 2010

■ 発達障がいと「不登校」

発達障がい特有の行動特性が原因で精神的な問題を抱えるようになり、二次的な障害を発症する場合がある。

【発達障がいによる生きづらさ】

- 学校生活における度重なる失敗経験
- 対人関係、学習面のつまづきや困難うまく解決できない。



【二次障害】

- 自己肯定感の低下、自己嫌悪
- うつ病、適応障害、反抗挑戦性障害、
- 不登校や引きこもり

早い段階から発達障がい（グレーゾーン含む）への適切な支援・対応を行うことが、「いじめ」「不登校」の防止にもつながる。

発達障害と「いじめ」「不登校」問題の施策

学校訪問の実施

学校教育課

(生徒指導・特別支援教育担当)

- 学級経営
- 学習指導

教育・発達相談あおば

(臨床心理士)

- 集団内におけるアセスメント
- 周りとの関わり方



悩み、問題にあった
支援を提供

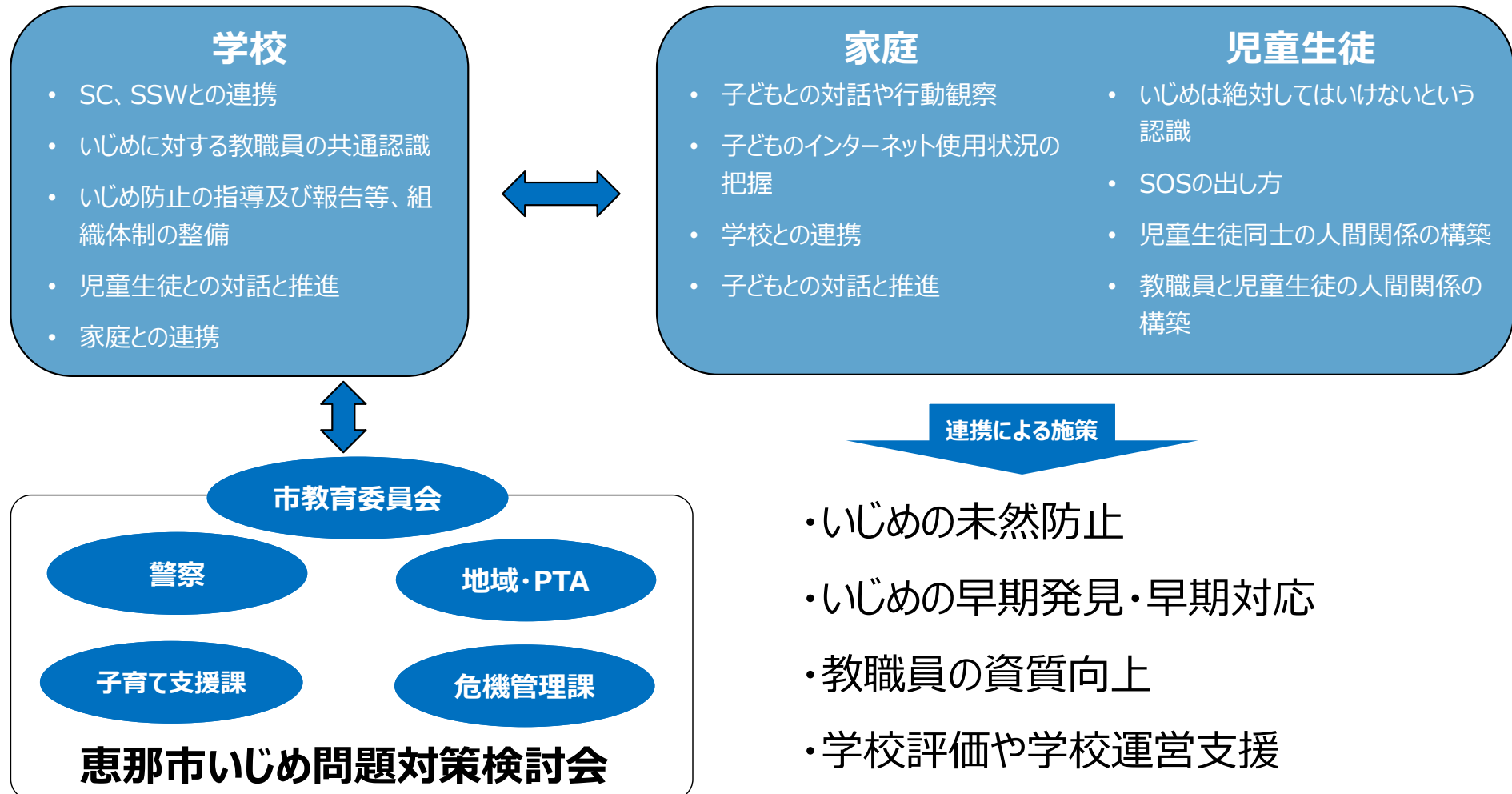
学級担任として…

管理職として…

いじめ問題への取組 1

防止等に向けた施策

・関係機関等と連携した体制の整備



いじめ問題への取組 1 (各種調査)

- ・ 国...生徒指導上の問題行動調査
- ・ 県...第 1 回岐阜県いじめ問題調査
第 2 回岐阜県いじめ問題調査
第 3 回追跡調査
- ・ 市...問題行動調査
いじめ月別調査 (追跡調査)
長期欠席調査 (月 7 日間以上欠席児童生徒)
7 日間連続欠席調査

いじめ問題への取組 2 (スクールライフノート)

紙実施の「こころのアンケート(月1回程度)」に加え、アプリを活用して一人一人の「心の天気」を把握。
○生活ノートとしての活用も。



声かけ

先生

今朝はどんな気持ちかな？
体調と一緒に、天気で気持ちを表してみよう。



児童生徒

朝の「心の天気」と健康観察を入力

登校したら、まずはスクールライフノートへ今の気持ちと今朝の検温結果を入力。自分の状況を客観視します。

天気で気持ちを表現



はれ くもり あめ かみなり

検温結果を入力

体温 35.6℃ 基礎体温 36.0℃

すいみん 22時09分 7時09分

心の天気を選ぶ



35.6℃
10月19日 09:45
高湿度

相談ボックス

悩みごとの相談ができます。

相談する

井口 麻里さんへのお知らせ

いじめ問題への取組 3

SOSの出し方教育

岐阜県版
SOSの出し方に関する教育の
ガイドブック



岐阜市立綱代小学校の掲示

岐阜県教育委員会学校安全課

中京学院大学 江畑 慎吾 准教授
市高齢福祉課 安藤 寛美 さん
による、「こころの授業」の実施

令和5年度：岩邑中、山岡中
令和6年度：恵那西中、恵那東中



いじめ問題への取組 3

SOSの受け止め方研修 (SCによる職員向け研修 令和6年度 岩邑中)

2024.8.21

岩邑中学校 教育相談研修

1 話の聴き方「傾聴」とは

「傾聴」は、米国心理学者でカウンセリングの大家であるカール・ロジャーズによって提唱された。カール・ロジャーズは傾聴を「積極的傾聴」と呼び、自らが行ったカウンセリングの事例を分析して、話を聴く側には3つの要素「共感的理解」「無条件の肯定的関心」「自己一致」が必要であると説いた。

ロジャーズの3原則

「共感的理解」

相手の話を、相手の立場に立って、相手の気持ちに共感しながら理解しようとする

「無条件の肯定的関心」

相手の話を善悪の価値、好き嫌いの評価を入れずに聴く。相手の話を否定せず、なぜ そのように考えるようになったのか、その背景に肯定的な関心を持って聴く。そのことによって、話し手は安心して話ができる

「自己一致」

聞き手が、相手に対しても、自分に対しても真摯な態度で、話が分かりにくい時は分 かりにくいことを伝え、真意を確認する。分からないことをそのままにしておくことは自己一致に反する。

いじめ問題への取組 4

(例) 市 教育相談コーディネーター研修会

ケース④ アンケートの罠

○ アンケートでの着眼点

- ☐ 回答時間が短すぎる
- ☐ 回答時間が長い割に何も書いていない
- ☐ 全部「問題がない」に回答している

※マルの大きさ、筆圧、消した跡など
不自然さがあることも

不登校問題への取組 1 （校内教育支援センター）

校内教育支援センターの充実に向けた取組

- ・教育相談強化のための心の教室相談員配置による相談体制の整備。
- ・学業不振をサポートするための学習支援員の配置。
- ・安心して学べるための環境整備



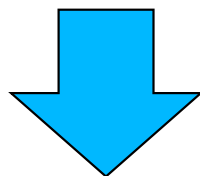
市内中学校
校内教育支援センターの様子

不登校問題への取組 1 （校内教育支援センター）

校内教育支援センターの充実に向けた取組の成果

○学校に来られる生徒にとって、安心して生活できる環境

○学びたいと思ったときに、学べる環境



○昨年度、毎時間校内教育支援センターを利用⇒
今年度、自身で決めた教科は、自教室にて参加できる生徒も。⇒自己決定

○個に応じて、ZOOMで授業参加やドリルパーク(タブレット内アプリ)等、ICT活用。⇒自己決定

不登校問題への取組 1 (校内教育支援センター)

校内教育支援センター（学習室や相談室等）の利用人数

中学校名	R5利用者数	R6利用者数	R7利用者数（7月）
A	6	7	7
B	9	1 1	15
C	4	4	5
D	1	1	1
E	3	4	2
F	0	1	0
G	0	1	1
H	3	2	4
合計	26	3 1	3 5

※「自主学習」、「教室授業にZOOMで参加」、「ゆっくり」など、それぞれが自己決定した内容を支援

校内教育支援センターの事例

(状況)

- ・ 教室に入れない生徒

(問題点)

- ・ 相談室内で、数名の生徒がおしゃべり
- ・ 自習をしたい生徒は周りの雑音が気になり、集中できない。

(対応)

- ・ 相談室内での生活の仕方をまとめ、利用する生徒と保護者に提示
- ・ 利用許可を得て、相談室利用を開始
- ・ 相談室と学習ルームを区分け(学習サポートは教員が対応)

(実行)

- ・ 活動内容を自己決定（基本的には、所属学級の時間割に沿って計画）
- ・ 自己決定した方法で学習を進める（一人学び、ICTを活用した授業参加等）
- ・ 一日の生活の振り返り

(成果)

- ・ 落ち着いた環境下で、学びの保障

(課題)

- ・ 学習ルームを担当するスタッフ数。学校によっては複数教室確保。

不登校問題への取組 2

(市教育・発達支援センター)

子どもの居場所

支援体制

※教育支援室の在り方

これまでの学校復帰を図ることだけでなく、自信や自尊感情を持つこと、社会的参加、対人関係の改善を図る。

目的

- ・児童生徒の心の休養を促し、安心して過ごせる配慮。



教育支援室
(はなのき・むつみ)

生活

- ・個別に計画を作成し、目標達成状況がわかる支援。

・スタッフ5名

・月～金、9時～17時

相談

- ・安心して相談できる環境の整備。
- ・丁寧な相談対応により心身の安定を図る。

(参考) 利用者数・・・見学体験を含む

年度	不登校児童生徒数		合計	教育支援室	割合
	小学校	中学校			
R3	47	63	110	12	10.9%
R4	59	92	151	18	11.9%
R5	56	87	143	18	12.5%
R6	60	105	165	22	13.3%

適応支援

- ・社会性等を身に付けるための体験学習。

連携

- ・学校、関係機関と連携。

教育支援室（はなのき・むつみ教室）の事例

（状況）

- ・ 人前で話をするのが苦手な低学年児童
- ・ 5月に入り、登校を渋るようになった。

（問題点）

- ・ 過度なストレスを受けている状況から解放

（提案）

- ・ 別室登校
- ・ 教育支援室登校



本人と母親が相談し教育支援室への通所を開始

（実行）

- ・ 児童への助言 ➡ 朝、決まった時間に起きる。教育支援室の見学に行ってみる。
- ・ 母への助言 ➡ 出勤時間に合わせて、朝、児童を起こし通勤時に教育支援室へ送迎。

（成果）

- ・ 朝、学校に寄り学校職員に挨拶をしてから教育支援室に向かえるように。
- ・ 継続的な通所から、**現在、ほぼ毎日、学校へ登校。**

不登校問題への取組 2 (市教育・発達支援センター)

あおばによる教育相談

相談体制

※教育支援室の在り方

教育相談員を配置し体制を強化。他機関との連携によるアウトリーチの実施により、不登校の長期化によるひきこもり対策と重層的支援を行う。

目的

- ・教育相談体制の強化。(専門員と場所の確保) ➡ **教育支援室**の充実

相談

- ・主に長期欠席による引きこもり傾向の児童生徒の相談、面談。
- ・**家庭訪問による定期的な相談の実施。**
- ・学校とのつながりがうまく取れなくなってしまった児童生徒その保護者、家庭への支援。

連携

- ・学校、教育支援室、教育・発達相談室あおば、子育て支援課、社会福祉課、その他関係機関と連携。



不登校問題の取組 2 （市教育・発達支援センター）

あおば（臨床心理士）、学校教育課による学校訪問

悩みを抱える子ども、学級の様子を見学

- ・個別最適な支援
- ・学級経営支援



要請巡回相談の効果

- ・困り感の本質を知る
- ・支援の具体が分かる
- ・チーム対応

学校との情報共有、連携による実施

関係機関との連携による支援の実施

悩み、問題にあった
支援を提供



発達相談等の
紹介

不登校問題の取組 3 （市子育て支援課）

子育て支援課等による家庭訪問の実施

家庭訪問の実践

- ・定期的訪問
- ・長期戦
- ・粘り強く

学校との情報共有、連携による実施

徐々に心を開き
信頼関係ができる



家庭訪問の効果

- ・児童生徒の状況確認
- ・家庭の状況把握
- ・悩みの本質を知る

関係機関との連携による支援の実施

悩み、問題にあった
支援を提供

★R6 定期的家庭訪問の状況 7人(小5人、中2人)

不登校問題の取組 4 （他機関との連携 1）

フリースクール等に通う児童生徒数

フリースクール等	恵那市参加人数	備考
A 市内 (週 3 日)	6	小学生 5 中学生 1
B 市内 (週 1 日程度 + α)	4	小学生 4
C 近隣市 (週 4 日)	1	小学生 1
D 名古屋市 (複数コース)	1	中学生 1
E 名古屋市 (複数コース)	1	中学生 1
合計	13	小学生 10 中学生 3

不登校問題の取組 4 (他機関との連携 1)

フリースクール等の様子 (ひふみ学園)

不登校で悩む保護者の皆様へ

学校に行かない…どうしよう

「とにかく、子どもの居場所を」とフリースクールに興味を持たれた方もいらっしゃると思います。ひふみ学園は、子どもたちが安心して自分らしく居られる場です。まずは、心と身体を整えて。それから、学校や学園へ気持ちに向くかもしれません。スタッフも仲間たちも、ひとりひとりのペースを尊重します。

“学校”のイメージを一変させる

- ・先生と呼ばず、ニックネームで呼ぶ
 - ・命に関すること以外、指示・命令・禁止をしない
 - ・スマホを止め、デジタル機器の持ち込みOK
- 学校に行かない子どもたちの中には、心に悲しみや不安を抱えている場合があります。子どもの心に寄り添い、学園が「毎日行きたくなる楽しい場所」であるために、学校のイメージを変えるところからはじめています。

毎日が、幸せな1日であるように



未来を生きる子どもたちへ
あなたの力を

支援・応援をよろしくお願いします

資金支援

寄付・継続的なサポートで学園を支えてください。食材の差し入れも歓迎です！

技術・スキルの提供

プログラミング、アート、農業など、子どもたちの学びに役立つ技術を教えてください。

高校生、大学生インターン

イベントや日々の見まもり、学習サポートにご参加ください。



ひふみ学園 ☎ 509-7403
岐阜県恵那市岩村町218
✉ info@123-coach.com
お気軽にお問い合わせください



ホームページ

詳しくはホームページを
ご覧ください
<https://123-school.co.jp>



地球で遊ぶ。遊ぶために学ぶ。

ひふみ学園



あなたの街の
フリースクール



不登校問題の取組 4 (他機関との連携 1)

フリースクール等の様子 (ほあかりの森)

「ほあかりの森」について

「ほあかりの森」は、子どもと大人が自然や日々の営みの中で共に学び、成長し循環する暮らしの場を目指します。ここは、子どもとスタッフ、そして関わる大人たちが一緒に創っていく場所です。

○場所
恵那市明智町1551-72

○対象年齢
小学校1年生～中学校3年生

○お問い合わせ
TEL:080-5102-2287 (赤塚)
Mail: hoakari.328@gmail.com
※詳しい場所や費用、活動日などはお気軽にお問合せください。

○SNS
Instagram
@hoakari_no_mori



○代表 赤塚 寛(ろっしー)



公立小中学校で12年勤務。(教科は技術科)
森のようちえんスタッフ、えなプレーパークの
プレーリーダー、ほあかり養蜂園代表。
教育と自然をテーマに遊び場をつくっている。
「自然の中で子どもたちとともに学び合う」を
モットーに日々実践中。



森の学び舎

ほあかりの森



不登校問題の取組 5 （他機関との連携 2）

文部科学省等事業について

- 1 不登校・いじめ緊急対策パッケージ
- 2 COCOLOプラン（誰一人取り残されない学びの保障）
多様な学びの場の確保
心の小さなSOSの早期発見
学校の風土の「見える化」
- 3 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置
- 4 SNS相談体制の整備
- 5 教育支援体制整備事業（学習支援員の配置）

不登校問題の取組 5 （他機関との連携 2）

県教育委員会事業の活用

SSW

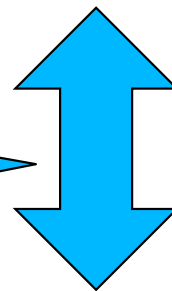
（スクールソーシャルワーカー）

**いじめ不登校未然防止
アドバイザー**

**スペシャリスト
サポート事業**

スクールカウンセラー、スクール相談員

専門家の見立て



教員へのアドバ
イス

教職員 管理職の指導のもと
教育相談コーディネーター、生徒指導主事、養護教諭
心の教室相談員等と学級担任の連携

成果（○）と課題（●）

○個々の実態に応じた対応

○関係機関との連携

●家から出られない児童生徒へのアプローチ

●保護者支援

※フリースクール等との連携

今後に向けて

- ・校内教育支援センターのさらなる充実
- ・教員研修のさらなる充実（初期対応、SOSの受け止め方等）

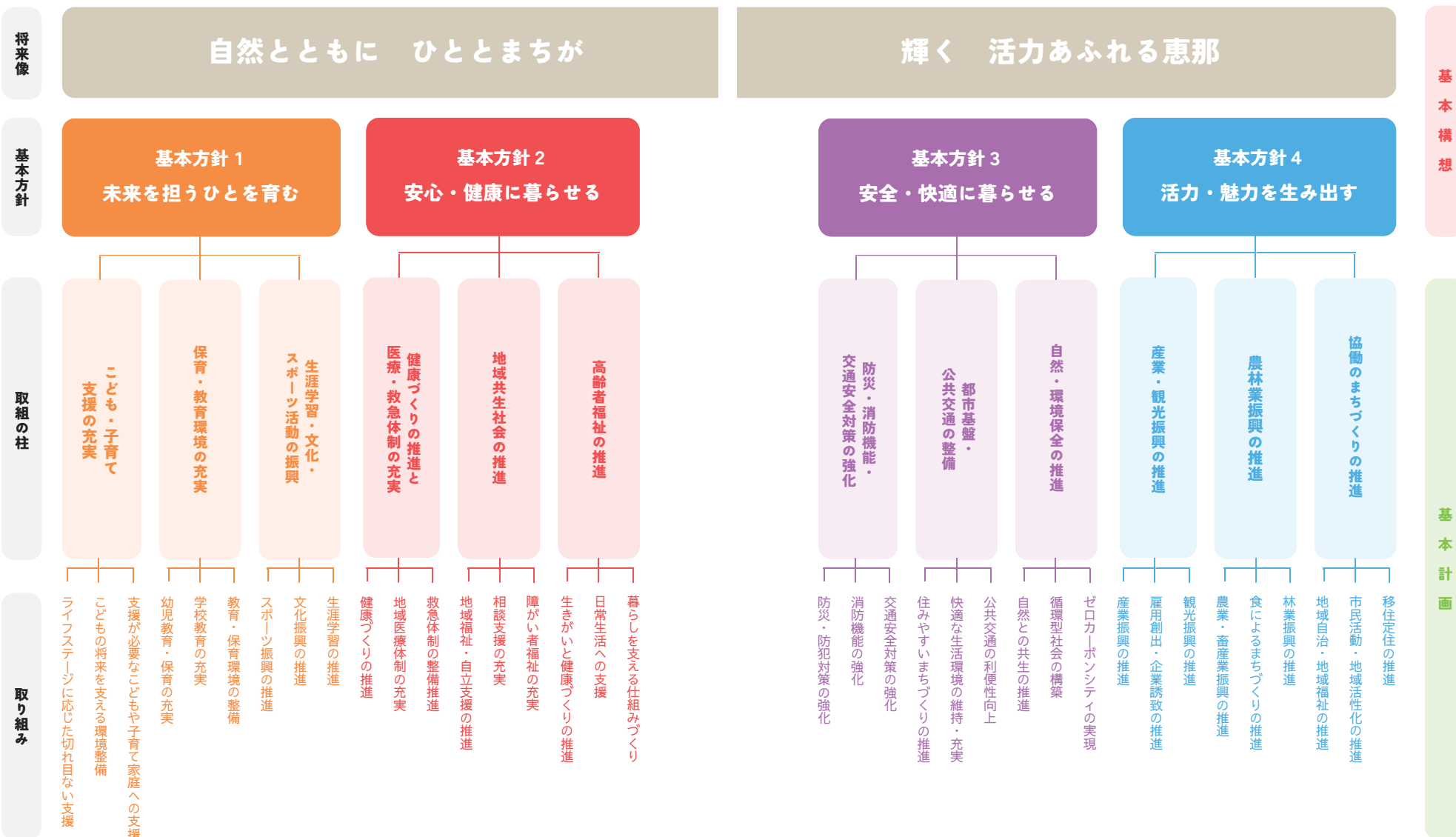
【新たな取り組み】

- ・教育支援室（はなのき・むつみ）スタッフによる
家庭訪問（令和7年度開始予定）
- ・悩みをもつ保護者同士が気軽に話ができる仕組みづくり

恵那市教育大綱の策定について

(4) 基本方針ごとの取り組み

体系図



恵那市総合計画の教育分野

将来像

自然とともに ひととまちが輝く 活力あふれる恵那

基本方針

基本方針1
未来を担うひとを
育む

基本方針2
安心・健康に暮ら
せる

基本方針3
安全・快適に暮ら
せる

基本方針4
活力・魅力を生み
出す

取組の柱

取組の柱1
こども・子育て支援
の充実

取組の柱2
保育・教育環境の充
実

取組の柱3
生涯学習・文化・ス
ポーツ活動の振興

取 組

基本構想（教育大綱）

基本目標1
主体性

基本目標2
社会性

基本目標3
郷土愛

ライフステージに応じた切れ目ない支援（幼児教育課・学校教育課）

こどもの未来を支える環境整備（幼児教育課・学校教育課）

支援が必要なこどもや子育て家庭への支援（幼児教育課・学校教育課）

幼児教育・保育の充実（幼児教育課）

学校教育の充実（学校教育課）

教育・保育環境の整備（教育総務課・幼児教育課）

スポーツ振興の推進（スポーツ課）

文化振興の推進（文化課）

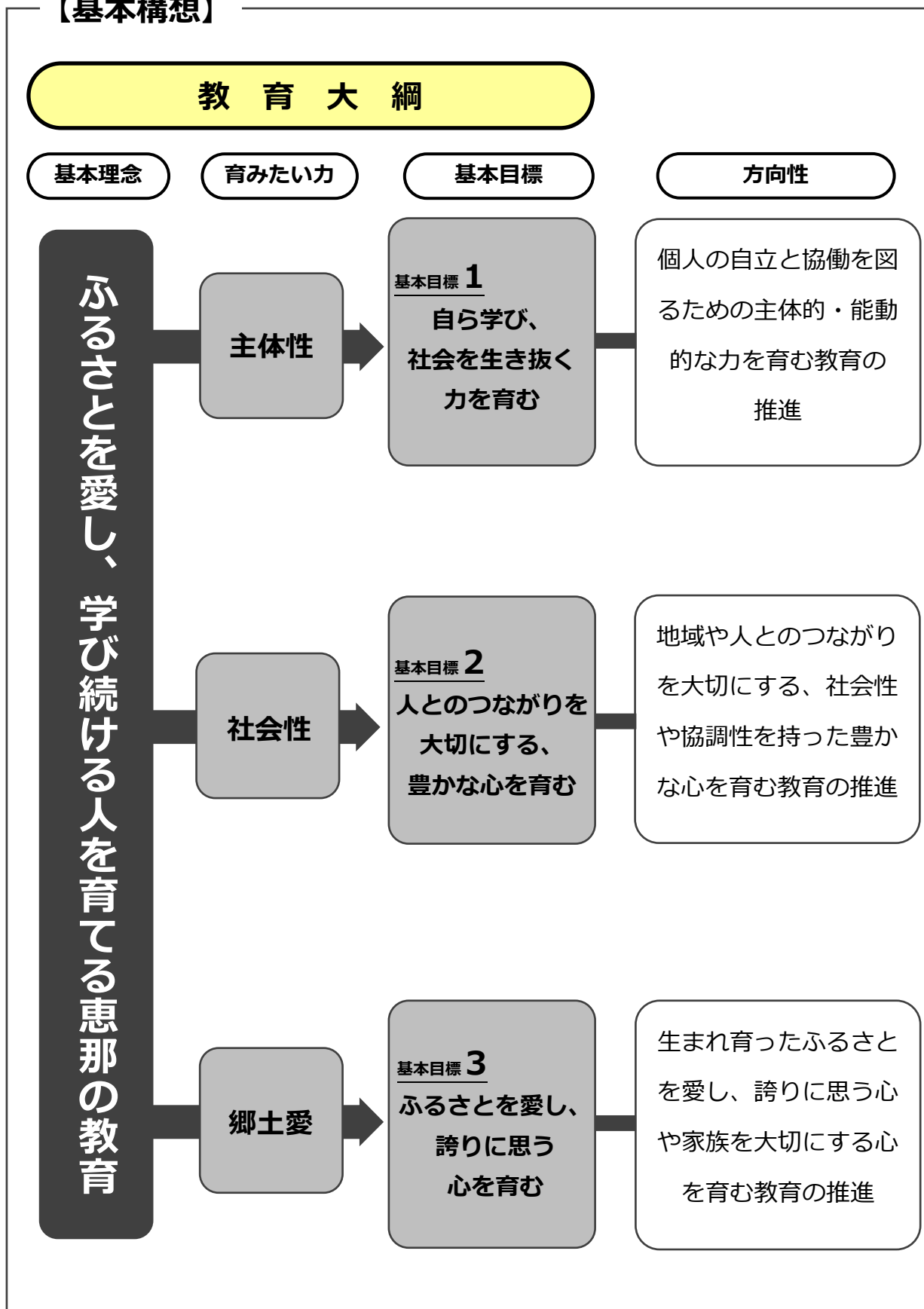
生涯学習の推進（社会教育課）

恵那市教育振興基本計画策定のスケジュール

開催日	会議名等	内 容
令和 7 年 4 月 23 日	第 1 回策定委員会	・ 次期教育振興基本計画の策定方針について ※基本構想（教育大綱）案に賛同
令和 7 年 7 月 29 日	第 2 回策定委員会	・ 現計画の実施状況について ・ 計画案について （基本構想、施策、取組の方向性等について）
令和 7 年 8 月 20 日	第 1 回総合教育会議	・ 教育大綱の協議
令和 7 年 11 月	第 3 回策定委員会	・ 計画案について
令和 7 年 12 月	パブリックコメント	
令和 8 年 1 月	第 4 回策定委員会	・ 計画案について
令和 8 年 2 月	教育委員会	・ 計画案の承認

～計画の体系～

【基本構想】



～基本理念～

ふるさとを愛し、学び続ける人を育てる 恵那の教育

これまで本市では、市民が自分の生まれた地域に誇りと愛着を持ち、変化の激しい社会を生き抜く確かな学力と、望ましい人間関係を築く力を身に付け、夢や目標に向かって挑戦し、人生を切り拓くことのできる市民を育てることを目指して、幼児教育および学校教育、社会教育等に取り組んできました。

【現状】

しかし、少子化、人口減少、高齢化が予想以上に激しく、その変化に対応しきれないようになってきています。とりわけ人のつながりが希薄となり、過疎地域を中心に地域社会の崩壊が危惧されるようになってきました。

民間の調査では、将来消滅する可能性のある自治体として名前が挙がっています。

【課題】

このような状況から市民一人一人の力を高め、人のつながりを強める力を身に付けさせる教育の実現が喫緊の課題です。

具体的には、3つの柱から見て、

○「ひとづくり」の柱では、自己肯定感や達成感、挑戦する意欲を持てるような教育が求められています。(主体性)

○「まちづくり」の柱では、社会性や協調性を有した豊かな心を持った人材を育成することが求められています。(社会性)

○恵那市は、豊かな自然と歴史的遺産や文化的遺産に恵まれています。この地域資源を有効に活用し、地域の人のつながりや自然等の地域資源を活かすこと、このことが恵那市の教育がもっとも大切にしたい「特色づくり」です。(郷土愛)

○現在の流行として、社会におけるICT(情報通信技術)の進展は著しいものがあります。学校教育はもとより、すべての年代でICTを活用した学びを推進していく必要があります。幸い恵那市は他に先がけてハード面の整備をし、ソフト面も先進的な取り組みを続けています。これを活かしさらに充実していくよう取り組んでいきます。

【基本理念】

これらを踏まえ、本市では、市民一人一人の心に三学の精神が息づき、“主体性”“社会性”“郷土愛”の3つの力を生涯にわたって身に付けていく、「ふるさとを愛し、学び続ける人を育てる恵那の教育」を計画の基本理念とします。

～基本目標～

基本理念の設定理由の3つの要素、「主体性」「社会性」「郷土愛」が基本目標です。

基本目標1 自ら学び、社会を生き抜く力を育む（主体性）

グローバル化や情報化の進展、コロナ禍など、多様で変化の激しい社会を生き抜くためには、一人ひとりが幅広い知識・教養と柔軟な思考力に基づいて新しい価値を創造したり、他者と協働したりする能力が求められます。

【本市での方向性】

本市では子どもたちの自己肯定感や達成感、挑戦する意欲の醸成が教育の今後の課題として挙げられます。幼児教育・学校教育の充実や読書活動の推進による学びの習慣化、また、自然体験や交流体験等の体験学習の中で成功体験を経験させることなどにより、個人の自立と協働を図るための主体的・能動的な力を育む教育を推進します。

基本目標2 人とのつながりを大切にする、豊かな心を育む（社会性）

持続可能で活力のある地域社会は、さまざまな人々とのつながりや支え合いを形成することで実現されます。また、こうした人々との関わりの中で、個人の社会性が培われるとともに、さまざまなアイデアが生まれ、地域社会のさらなる発展を促すこととなります。

【本市での方向性】

本市では、生涯学習による“人づくり”を通じた“まちづくり”を目指しています。地域の文化・芸術活動、運動・スポーツ活動の充実等によって、地域や人とのつながりを大切にする、社会性や協調性を持った豊かな心を育む教育を推進します。

基本目標3 ふるさとを愛し、誇りに思う心を育む（郷土愛）

第3次恵那市総合計画では、「自然とともに ひととまちが輝く 活力あふれる恵那」をまちの将来像として掲げています。こうしたまちを築いていくためには、市民一人ひとりがふるさとへの愛着と誇りを持ち続けながら、清く、優しく、たくましく生きていこうとする心を育むことが重要です。

【本市での方向性】

郷土の先人たちの生き方や郷土への想いに触れる活動の充実、地域の学習・交流拠点としてコミュニティセンター等を活用した地域づくり活動の推進や伝統文化・芸術の伝承等により、生まれ育ったふるさとを愛し、誇りに思う心や家族を大切にする心を育む教育を推進します。